

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・表現活動において楽曲にふさわしい表現の工夫をしようとする生徒が増え、パート全体がイメージを共有できるようになった。
- ・歌唱の表現において、発声や発音などの細かい部分まで意識して歌える生徒が増えた。
- ・鑑賞に関わる知識を生かし、曲や演奏に対する評価とその根拠などを言葉で説明できる生徒が増えた。
- ・創作活動において、言葉のイメージに即した創作をしようとする生徒が増えた。

(2) 課題

- ・音楽的特徴と結び付けて、楽曲を鑑賞したり、表現したりしようとする意識を高めさせる。
- ・パートリーダーを育成し、パート内の自主的な練習ができるようにする。
- ・創作活動において言葉やリズムと旋律の関連性を理解させ、幅広い創作活動につなげる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較） 実施教科でない。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な音楽表現を正しく理解する必要がある。 知識に基づいた技能の習得が必要である。	強弱記号など、工夫する手がかかりを理解させる必要がある。 音楽を聴いて感じたことを素直に言葉で表現することができる。	前向きな態度で、授業に取り組むことができる。 感じたことをふさわしい言葉で表現し他の人たちに発表することができる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識や奏法を深く理解することが必要である。 知識に基づいた技能の習得が必要である。	音楽表現の工夫について、思いや意図をもつことができる。 楽曲や楽器の特徴を具体的に書き、感じたことを言葉で表現することができる。	前向きな態度で、授業に取り組むことができる。 感じたことについて積極的に発表し、他者の意見を尊重しながら活発なグループ内の話し合いができる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識に基づいた技能の習得が必要である。 楽曲の背景にある文化や歴史にふれながら、総合的に理解することができる。	パートの役割を理解して表現させる必要がある。 音楽表現の工夫について、思いや意図をもつことができる。	前向きな態度で、意欲的に授業に取り組むことができる。 感じたことについて、グループ内で共有し、自己の表現活動に生かすことができる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
よい姿勢・発声を身に付け、ハーモニーを感じながらのびのびと歌わせる。	強弱記号の意味や、音楽表現の工夫の効果を実感させる。 感じたことを言葉で伝えられるよう、言葉の表現を増やしていく。 言葉とリズムの関係を理解し、表現を工夫させる。	毎時間の目標を明確にし、その目標達成にむけて集中して授業に取り組ませる。 一人一人に応じた支援をする。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌詞の内容を考え、表現につなげるなど、繊細な感情表現を意識して歌わせる。	生徒が個々に表現方法などの目標を設定し、パート全体としてそのイメージに向かって表現する力を培う。 鑑賞のポイントを明確にし、音楽的な要素を感じ取れるようにする。	具体的な歌唱の仕方や様々な演奏方法などを理解させ、自分自身の課題に対して意識を高めていく。 一人一人に応じた支援をする。 パートで協力し、感じたことを共有する場面を設定する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
これまで学んできた知識に基づく技能を生かし、より豊かな表現活動につなげさせる。 記譜の知識をつけ、幅広い表現に繋げさせる。	音楽の構造や作曲意図を理解した上で音楽表現の工夫ができるようにする。 音楽に対する評論を書くことを通して、自分なりの解釈や価値をもち、音楽のよさや美しさを感じ取れるようにする。 言葉のイメージと抑揚などを関連付けて考え、それにふさわしい創作活動の工夫ができるようにする。	内容の幅をもたせ、バランスよく分野別に興味・関心を高めていく。 題材に応じた自分自身の課題意識をもち、目標達成に向けて一人一人に応じた指導をする。 パートで協力し、感じたことを共有する場面を設定する。